

□ アナリスト週間相場予想

		
江崎		
西		

Pick up News

- [注目スケジュール]
- 9/29 ユーロ圏景況感指数
 - 30 ユーロ圏消費者物価速報値
米消費者景気信頼感指数 (コンファレンス・ボード)
S&P/ケース・シラー住宅価格指数
 - 10/1 ユーロ圏失業率、米ISM製造業景況指数
 - 2 欧州中央銀行 (ECB) 理事会、米週間新規失業保険申請件数
 - 3 米雇用統計、ISM非製造業景況指数
米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



チャートは東京白金先限日足に長短の移動平均線を付したものである。今月初めに20日移動平均線にワンタッチした後更なる下降に転じ9/18安値をボトムとして切り返し一旦は9/18高値3940円をブレイクアップ。このまま上昇に転じるかと思われたが再び20日移動平均線を上方突破できずに反落している。現在の所(26日17:00)サポートラインとして機能していた3940円を綺麗に割り込んでいる。このまま3940円を回復できない場合は直近安値3601円まではっきりしたサポートラインは無い。5日移動平均線は下方方向に転じており目先はとて買い参入できるチャートではない。3940円と4206円(9/24)を2段階で撤退ライン目安として売り方針で臨みたい。金はアメリカの金融政策如何によってぶれるかもしれないがチャート上のポイントは2950円所。これをサポートすれば買いでブレイクダウンした場合は売り。この値段を確り割り込むかどうかで目先の方向性は素早く変える必要がある。様子見。(9/26 17:10現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

金相場は急騰後の反動も小さく、3,000円割れでは押し目買い意欲の強さがうかがわれる。金融市場安定化へ向け米国では7,000億ドルの公的資金投入に対する調整が進められているが、これで万事解決というわけでもないとの見方から、金相場はこのまま高値を目指すとの強気な見方も出ている。一方で、短期的には安全資産として急速に買われた反動を警戒する向きも多い。為替市場の反応に委ねられている部分も大きく、今は結果待ちの状態である。週明けのアジア市場オープンまでには何かしらの正式な発表があると見込まれている。

なお、本日はワシントン・ミューチュアル(日本でいう信用金庫のような存在)がJPモルガンに身売りされることが決まり、米国で過去最大規模の銀行破綻とのニュースが伝えられた。ただ、株式市場ではいつ経営破たんしてもおかしくない値動きを強いられただけに、発表直後はユーロ買いにて為替市場は反応を見せた。やはり、市場安定につながる材料には、これまでのリスク圧縮の動きとは逆でクロス円買いにて動きやすいようだ。仮に、現在審議中の金融安定化法案が修正少なく採決されるようであれば、為替市場では円の独歩安になる可能性もある。問題はユーロ/ドルの位置取りで、ドル建てのNY市場がどちらに動くかである。短期的には金には売り圧力が加えられるものと考えますが、株式市場がすっきり上がらないようだ、再び注目されることも十分に考えられるところ。ポジションは一旦中立化して、結果を見ながら方向感を見出すようにしたい。それにしても、毎週のように何かが起こる金融市場、それも決まって週明けまでに発表とされては気が休まらない。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。